

放課後等デイサービスガイドライン自己評価表

回答率

事業所職員： 6名回答、回答率 75%
保護者様： 32名回答、回答率 80%

職員の意見

○環境・体制整備

・安全管理の面から、机や物の配置を考えている。

○業務改善

・業務前MTGを行ない、全スタッフで連携、情報共有をしながら日々の支援に取り組んでいる。

○適切な支援の提供

・活動プログラムが偏らない様に、スタッフ間で相談し合いながら毎日の活動を企画している。特に祝日や土曜日のイベント活動は、1か月以上前にスタッフ間で案を出し合いながら決めている。

・活動プログラムを全員が把握できるよう、表に入力している。その為、担当スタッフが急遽休んでしまっても予定していた活動が行なえている。

・個別課題の内容は、児童の様子や特性を考え、保護者の希望を丁寧に聞いて設定をしている。また、児童ごとに個別課題用のファイルを作成している。

・支援終了後の振り返りは、勤務時間の関係で十分に行なえない日があるが、その場合は次の日のMTGで必ず共有連携をする様ようにしている。

○関係機関や保護者との連携

・日々、学校の先生と児童の様子について共有をする事が出来ている。また、定期的にサービス担当者会議に参加している。

・送迎時や連絡帳などで、児童の様子を具体的に伝えている。

○保護者への説明責任等

・運営規定や支援の内容など、分かりやすく丁寧な説明を心掛けている。

○非常時等の対応

・毎月の活動で、色々な災害の発生に備えた内容の避難訓練を行っている。

・非常時には速やかに連携を行ない、適切な対応に努めている。

保護者様のご意見

○環境・体制整備

- ・活動スペースについて、「広くて良いです。」とのご意見を頂いた。
- ・「子供の活動スペースが十分に確保されているか」と「職員の配置数や専門性は適切であるか」という質問に対して、8割以上の方から「はい」とのご回答を頂いた。

○適切な支援の提供

- ・「子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画が作成されているか」と「活動プログラムが固定化しない様工夫されているか」という質問に対して、約9割以上の方から「はい」とのご回答を頂いた。今後も児童と保護者のニーズを客観的分析し、全スタッフで連携し合いながら適切な個別支援計画の作成に努める。また、社会性や協調性、判断力、指先の力生活をしていく上でに必要な力が身に着くような活動内容を引き続き企画していく。

○保護者への説明等

- ・「日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか」という質問に対して、約9割以上の方から「はい」とのご回答を頂き、満足度が高い事がうかがえた。今後も送迎時や連絡帳など、様々な場面で児童の状況や課題を丁寧に伝えていく。
- ・保護者同士の連携支援については、保護者会開催が出来ていない為、来年度は開催出来るよう対応していく。

○非常時等の対応

- ・「緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか」という質問に対して、1割の方から「いいえ」というご回答を頂いた。改めて、緊急時に合わせた対応方法を保護者に周知していく。

○満足度

- ・「子供は通所を楽しみにしているか」と「事業所の支援に満足しているか」という質問に対して、8割以上の方から「はい」とのご回答を頂いた。また、「安心して預けられる場所があり助かっています。」というご意見も頂いた。

昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

- ・職員ミーティングや保護者への聞き取りを行ない、非常時の対応について周知方法を工夫し、保護者に周知していく。
- ・日々の集団療育の内容が固定化しないよう、ニュースレター作成時に全職員で意見交換を行い、プログラムを決定する。すべての療育活動が確定したら、再度ミーティングを行ない、プログラムが固定されていないか最終確認を行なう。
- ・長期休みのスケジュールを検討し、夏休みカードや目標カード、ミニ活動など新しいプログラムを1つ以上取り入れる。

○改善できた点・まだ残る課題

- ・集団療育の内容が固定化しないよう、1人1人がプログラムの多様性を意識して、作成時に話し合いを重ねてプログラムを決める事が出来た。プログラム作成後の最終確認ミーティングまでは出来なかったため、来年度はより制度を高めていく。
- ・長期休みのラジオ体操カードを新しく改良を加えたが、昨年度もラジオ体操を行っていた為、大きな変化には至らなかった。来年度は、6月頃から全員で長期休暇のスケジュールについて話し合い、新しい課題やプログラムを取り入れていきたい。

アンケート結果からみる教室の強み・改善点

○教室の強み

- ・日頃から児童の様子を丁寧に保護者に伝えたり、面談時に支援に関する助言をしたりすることにより、ご家庭と細やかなコミュニケーションを取る事が出来ている。
- ・活動プログラムが固定化しないように、定期的にスタッフで話し合っている為、通所を楽しみにしてくれている方が多い。

○改善点

- ・「保護者会の開催等により保護者同士の連携が支援されているか」という問いに対して、「はい」と答えた方が5割未満だった為、保護者同士の連携の場として、まずは保護者参観型の療育活動を企画していく。
- ・「非常時の対応が周知されているか」という問いに対して、3割の方が「いいえ」や「未回答」だった為、保護者が見やすい様に、非常時の対応を一覧化して配布していく。

中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

○中長期的な改善計画

- ・保護者同士の連携の場が多い事業所を目指す。
- ・様々な非常時の対応について、ご家庭と事業所で共通認識を持つ。

○1年間で取り組む具体策

- ・集団活動時間が多く取れる、土曜日や祝日を利用して、保護者参観型の療育活動を企画していく。
- ・災害時や怪我事故発生時など、様々な場合に合わせた対応を集約し、保護者に書類で配布していく。
- ・毎月必ず行なう、避難訓練の様子をブログやニュースレターで紹介していく。